

10月発足 東京科学大学、初代理事長が所信表明 大竹氏「善き未来に挑戦する大学つくっていく」

今年10月、東京医科歯科大学と東京工業大学が統合して国立大学法人「東京科学大学」(一法人一大学)が誕生する。初代理事長には東工大科学技術創成研究院長・教授の大竹尚登氏(60)が就くことになっており、6月24日、大竹氏は東工大蔵前会館で会見を開き、所信表明を行った。会見の中で、大竹氏は、研究と教育への投資と環境を改善するため、10兆円規模の大学ファンドで支援する「国際卓越研究大学」に再申請する意向も示した。

東工大は理学院、工学院など6学院からなり、約1万人が在籍している。東京医科歯科



科学大の理事長候補者に決まり、会見で所信表明を行う大竹氏(東工大蔵前会館)

大は医学部、歯学部、歯学部の2学部で、学生数は約3000人。統合すると、大学院学生数は7116人となり、国立大学で4位となる。初代理事長候補者に決まった大竹氏の専門は機械材料学。東工大工学部を卒業後、同大教授、副学長などを経て、2022年から現職を務めている。

東京医科歯科大と東工大による「法人の長」を決める合同選考会議が今年4月から進められ、6月18日の会議で大竹氏を理事長候補者とすることを決定した。合同選考会議は「科学で善き未来を拓く」という明快で夢のあるビジョンを打ち出し、新大学が取り組むべき研究の重点分野や専門人材の育成等につき、先見性に富み、体系的かつ具体的な構想を示した」ことなどを大竹氏を選んだ理由に挙げている。任期は2024年10月1日から2028年3月31日まで。

24日の会見で、大竹氏は、新大学のビジョンについて「善き生活、社会、地球をつくりあげる大学」だと指摘。「知と技術の探究、創造の文化、変革と挑戦、この3つのバリエーションを大切にしながら徹底した対話を通じてour teamを形成する。その上で、大学自身、教職員、学生が社会とともに善き未来を描き、新学術・新産業の創成や感染症、カーボンニュートラルなどの社会課題に果敢に対応・挑戦していく。そんな活力と善意に満ち溢れた大学をつくっていく」と語った。

大学総括理事(学長)には 東医歯大の田中氏迎える意向

「新しい大学」をつくりあげるために、3つのステップを描く。まず、学内の融和と文化の醸成を図り、従来の基盤を超えた研究力を有する大学とし、そして、2049年までに世界トップクラスの科学系総合大学となることを目指す。その際、世界標準のガバナンス体制が必要だとし、新大学には「理事長」とともに、「大学総括理事(学長)」 「CMO (Chief Medical Officer)」 「CFO (Chief Financial Officer)」 「CIO (Chief Integration Officer)」を置く。大学総括理事(学長)には、東京医科歯科大学の田中雄二郎学長を迎える考えを示した。

こうしたガバナンス体制を確立したうえで、基礎研究を推進するとともに、科学的集合知「コンバージェンス・サイエンス」(異なる複数の学問領域が集合するとき、単純に足し算されるだけでなく、収れん後にシナジー効果を持つて生まれる科学)でインパクトの高い研究を展開する。また、大学病院について

は「新大学の価値創出の目玉となる医工連携研究の実装の中核の現場となる。現場の意見を聞き、CMO、病院長をはじめとする病院関係者と密接な連携をとって運営していきたい」と述べた。

教育については「各学術分野から輩出する人材に加えて、国際機関で活躍する人材、医工融合人材など多様性に富んだ卒業生を輩出していきたい」とし、「教養教育(リベラルアーツ教育)は非常に重要。国際化にも注力し、留学生との国際共修を検討する。また、歯学系と理工学系の両学生がともに学ぶ機会を拡大していく。博士課程学生の待遇を同年齢の社会人待遇に近づけることで、博士人材を増加させ、研究力の向上を図る」などと語った。

盛山正仁文部科学大臣は6月21日の閣議後会見で、大竹氏について「指導力・発信力を十分に発揮していただき、法人統合のメリットを生かしつつ、戦略的な法人運営に取り組んでほしい。統合して成功だったと言われるような大学にしてほしい」と期待を表明している。